

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成21年2月26日(2009.2.26)

【公表番号】特表2008-536349(P2008-536349A)

【公表日】平成20年9月4日(2008.9.4)

【年通号数】公開・登録公報2008-035

【出願番号】特願2007-557026(P2007-557026)

【国際特許分類】

H 04 N 7/32 (2006.01)

H 04 N 5/93 (2006.01)

H 04 N 5/76 (2006.01)

H 04 N 5/92 (2006.01)

【F I】

H 04 N 7/137 Z

H 04 N 5/93 Z

H 04 N 5/76 A

H 04 N 5/92 H

【手続補正書】

【提出日】平成21年1月9日(2009.1.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

M P E G 映像ストリームにおける完全な画像を構築するために必要なフレームを動的に決定するための方法であって、

複数のタイプのM P E G 映像ストリームで継ぎ目なく動作するように復号化順の映像ストリームに応じた従属性ベクトルを決定するように構成される従属性ベクトル・モデルに従って、前記M P E G 映像ストリームのフレームの順序を復号化することであって、前記従属性ベクトル・モデルは前記従属性ベクトルを、完全にイントラコード化された画像が導出されるまで復号化順の映像ストリームを逆方向で再生することにより決定し、前記従属性ベクトル・モデルの所与のフレームは、標示されるフレームの絶対従属性として識別され、前記従属性ベクトル・モデルは、(i)表示順のM P E G 映像ストリームにおいて、前記相対コストは開始フレームからそのフレームに絶対従属性するフレームまでのバイト数に応じて表示フレームの相対コストを決定すること、(ii)表示順のM P E G 映像ストリームにおいて、差分フィルタを利用して表示フレームの前記相対コストを修正すること、(iii)閾値量を超える修正された相対コストを有するフレームに応じて接合点を選択することを含む、前記M P E G 映像ストリームのフレームの順序を復号化すること、

前記従属性ベクトル・モデルに従って決定される前記従属性ベクトルに応じて、両方向での前記M P E G ストリームのフレームの正確な表現実行することを備える方法。

【請求項2】

再生が

前記復号化順の映像ストリームの現在のフレームをバッファに読み出すこと、現在のフレームの全ラインがイントラコード化されたかどうかクエリを出すことを更に備え、

前記現在のフレームの全ラインがイントラコード化された場合、前記現在のフレームを絶対従属フレームとして指定し、前記現在のフレームの全ラインがイントラコード化されない場合、前のフレームをバッファに読み出し、その後、前記前のフレームを現在のフレームとして前記クエリを出すことを繰り返すこと

請求項1に記載の方法。

**【請求項3】**

前記従属性ベクトルを決定することは、相対的従属性と絶対的従属性とを含むMPEGフレームの従属性を決定することを備え、相対的従属性は、前記復号化順の映像ストリーム内で前に発生したアンカー・フレームに従属するアンカー・フレームを含み、更に絶対的従属性は、復号化順の映像ストリーム内で画像のグループ(GOP)のIフレームで終わる従属性を含む、請求項1に記載の方法。

**【請求項4】**

前記接合点は、GOPの端を示す、請求項1に記載の方法。

**【請求項5】**

表示順の複数のフレームを備える画像のグループ(GOP)内の、フレームの相対的従属性を決定すること

を更に備える、請求項1に記載の方法。